

ラジカット[®]内用懸濁液2.1% の服用にあたって

禁注射**⚠ 注意 点**

ご使用前によく読み、正しく服用してください。

- 1日1回5mLを、空腹時[8時間の絶食後(起床時等)]に服用してください。
服用後少なくとも1時間は水以外の飲食は避けてください。口からの服用が困難な場合には、経鼻胃管または胃瘻チューブから投与することもできます。
- 8時間の絶食ができない場合は、以下の表を参考に、服用前に必要な絶食時間を確保してください。(直前に摂取した食事の種類によって必要な絶食時間は異なります。)
- 本剤は投与期と休薬期を組み合わせた28日間を1クールとし、これを繰り返します。第1クールは14日間連日投与した後、14日間休薬し、第2クール以降は14日間のうち10日間服用します。次クールの投与開始日は前クール投与開始日の28日後です。

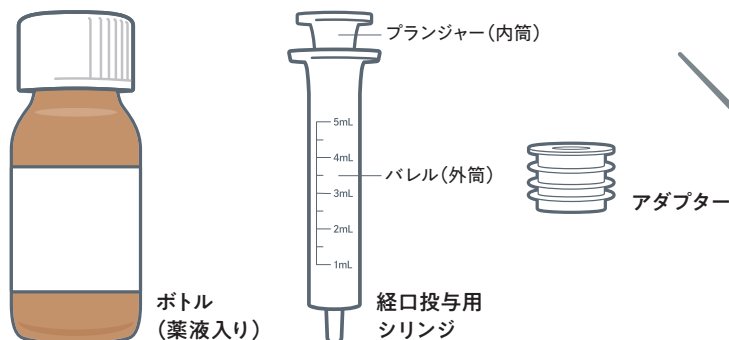
食事の種類	カロリー・食事の脂肪の割合の目安	服用前に必要な絶食時間
高脂肪食	1000キロカロリー、50%脂肪	8時間以上
低脂肪(通常)食	400キロカロリー、25%脂肪	4時間以上
軽食(栄養剤等)	250キロカロリー	2時間以上

絶食が必要な理由

絶食時間が不十分な場合、血液中への薬の吸収を妨げ、血中濃度の低下につながります。
服用の際は注意しましょう。

※ 本薬剤の絶食時間と最高血中濃度(血液中の薬の濃度がもっとも高い状態)の関係を調べた結果、絶食時間が必要時間の半分の場合には、空腹時と比較して最高血中濃度の値が約半分に低下することがわかりました。(ラジカット[®]内用懸濁液2.1%添付文書より)

- ボトル開封後は**15日以内に使用**してください。15日以内に使用しなかった場合は廃棄してください。
- **ボトル開封前は冷蔵(2~8℃)**で、ボトル開封後は室温で保存してください。また使用後は必ずキャップをしっかり閉めて、**まっすぐ立てて保存**してください。
- 他の薬剤・飲み物・食べ物と混ぜて服用しないでください。
- 経口投与時は付属の経口投与用シリンジから直接投与し、他の容器に移し替え投与しないでください。
- 口からの服用が困難な場合には経鼻胃管または胃瘻チューブから投与することもできますが、その場合も付属の経口投与用シリンジにて5mLを正確に量り取り、投与してください。

お渡ししているもの ※ 必ず小児の手の届かないところに保管してください。

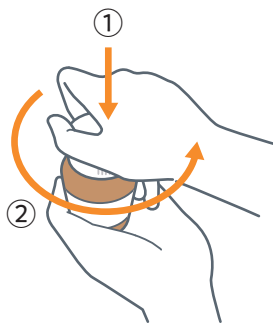
服用の流れと注意点

1



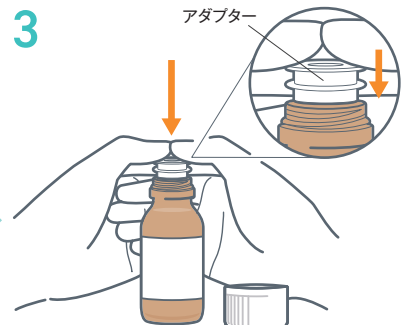
キャップが閉まっている事を確認し、ボトルを上下逆さまにして、30秒間上下によく振る。ボトルの底に固まりがないか確認し、薬液が完全に混ざるまで繰り返す。

2



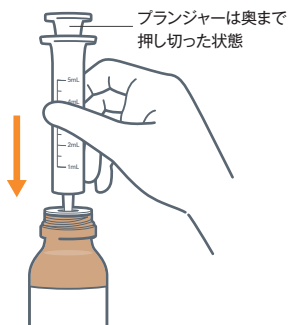
キャップを上からボトル本体に押しつけ、そのまま(カチカチ音がしない状態まで)左に回して開ける。

3



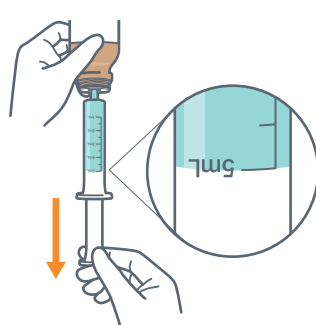
《初回使用時のみ》アダプターを平らな面を上にし、奥までしっかりと押し込んでボトルに挿入する。

4



プランジャーを奥まで押し切った状態の経口投与用シリンジを、アダプターの穴に奥まで差し込む。

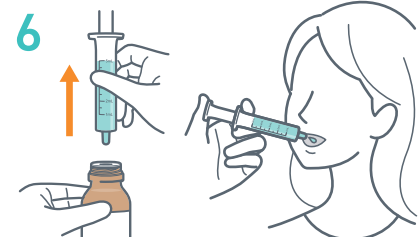
5



ボトルと経口投与用シリンジ(全体)を逆さまにし、プランジャーをゆっくりと5mLのラインまで引く。

口から服用する場合

6



ボトルを下に戻し、経口投与用シリンジを抜く。頬の内側に先端を向け、ゆっくりと薬液を流し込む。

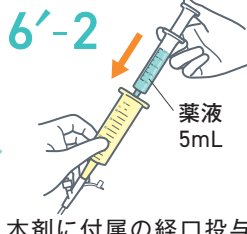
経鼻胃管または胃瘻チューブから投与する場合

6'-1



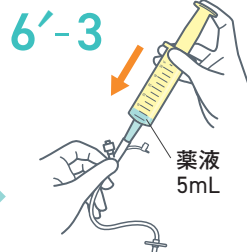
カテーテルシリンジのバレルを経鼻胃管または胃瘻チューブに接続する。

6'-2



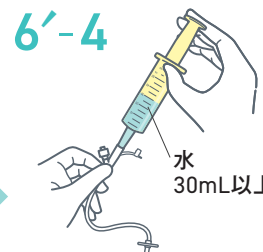
本剤に付属の経口投与用シリンジで5mLの薬液をカテーテルシリンジのバレルの中に押し出す。

6'-3



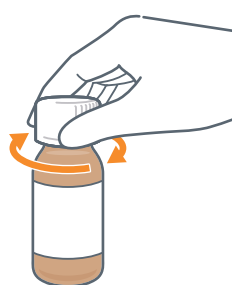
カテーテルシリンジのプランジャーにて、5mLの薬液を経鼻胃管または胃瘻チューブに押し出す。

6'-4



薬液投与後は、経鼻胃管または胃瘻チューブに残る薬液を、30mL以上の水で再度投与する。

7



使用後はアダプターを残したまま、ボトルのキャップを右に回して閉める。

8



経口投与用シリンジはプランジャーを外して毎回流水で洗剤を使わずに洗い、自然乾燥させる。

服用にあたっての注意事項をお知らせする動画をご用意しました。スマートフォン等からこちらの2次元コードよりご確認ください。



田辺三菱製薬株式会社

RCT-483A-
2022年11月作成
(審)22XI062